

日程第２．一 般 質 問

○議長（倉又 稔君）

日程第２、一般質問を行います。

４日に引き続き、通告順に発言を許します。

渡辺重雄議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺議員。〔４番 渡辺重雄君登壇〕

○４番（渡辺重雄君）

おはようございます。

清政クラブの渡辺重雄でございます。

それでは事前に通告いたしました通告書に基づきまして、１回目の質問をさせていただきます。

今回は、中山間地域の喫緊の課題と対策についてであります。

中山間地域に関しては、山林や農地が持つ水源かん養、洪水防止などの機能があり、豊かな自然環境は空気、水、食料など、人や動物たちが生きるために必要な大いなる恵みを作り出す機能であり、その集落には自然の恵みに対する感謝や災害を避ける願いを込めて行われる郷土芸能やお祭り、農業技術、地域独自の様々な知恵など、文化を伝承する機能があるとして、最近では、国をはじめほとんどの国民や各機関がその役割と重要性に関して認識し、共有していると考えております。

しかし、一方では人口減少、後継者・担い手不足、耕作放棄地の増加、コミュニティー機能の低下が深刻な状況であり、中山間地集落の崩壊の危機が迫っていると言っても過言ではありません。

表向きの評価を実現するために、国をはじめ各機関では様々な施策を講じておりますが、糸魚川市の現状を見るだけでも、対症療法ですら困難な状況が出てきており、年々課題が増えて複雑化しております。

取り巻く環境を考えても、ますます厳しい状況が予測されるだけに、原因療法とまではいかなくとも、今までの対策と違った、より効果のある新たな対策が必要となっております。

そこで、糸魚川市の中山間地域の集落機能や保全管理機能、生活環境などの喫緊の課題と対策について伺います。

(1) 過疎、高齢化の進行による集落機能の低下と対策についてであります。

国では、中山間地域に存在する農村の維持は極めて重要というが、現実には集落の共同活動の機能が低下し、今後の集落機能の存続が一層厳しい状況となっていることから、日常生活に関する各種の課題と対策について伺います。

(2) 農地や山林の保全管理機能の低下と対策についてであります。

従来、農林業生産基盤として管理されていた農地・山林が、近年、生産資源としての価値の低下や有害鳥獣などによって管理放棄や耕作放棄が発生するなど、保全管理機能の低下が著しいが、その課題と対策について伺います。

(3) 過疎の進行による生活環境の機能低下と対策についてであります。

これまでも、定住条件の整備を中心に各種生活環境の整備が進められてきているが、依然として、海岸部や中心部とはいろんなところで、市内格差もあることから、生活面での支障の解消につながる各種の対策について伺います。

以上で1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

おはようございます。

渡辺議員のご質問にお答えいたします。

1点目につきましては、集会施設、道路などの維持管理や、祭りなどの行事の実施が難しくなっているため、移住、定住を促進するとともに、地域づくりプランの作成につながる取り組みや、集落支援員、地域おこし協力隊の拡充により、地域の活力につなげたいと考えております。

2点目につきましては、近年、中山間地域では、過疎化、高齢化による担い手不足、有害鳥獣による農作物被害及び耕作放棄地の増大など、深刻な問題が山積いたしております。

このような状況から農業において日本型直接支払制度が創設され、平成26年度から平成31年度に、約18億円の交付金を地域で有効に活用することで、市といたしましては、農村環境の保全活動を支援してまいりたいと考えております。

また、林業については、木材価格が低迷する中、育林放棄地の増加によりまして荒廃山林が拡大し、これまで中山間地域で支えられてきた多面的・広域的機能に支障が生じつつあります。今後、系魚川産材使用住宅の促進と、中国への輸出による木材需要の創出を図っていききたいと考えております。

3点目につきましては、屋根雪除雪や食料品などの日用品の買い物、通院などが難しくなっていることから、屋根雪除雪の支援の充実、拡充、移動販売やコミュニティバスの利便性の向上により、格差の解消に努めていきたいと考えております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

○4番（渡辺重雄君）

ありがとうございました。

それでは1点目の過疎、高齢化の進行による集落機能の低下と対策について、2回目の質問をさせていただきます。

市では今年度、平成27年度の予算編成方針で、支え合いによる協働のまちづくりの中で、中山間地、高齢化集落への支援を強調しておるわけですが、今年度、特にこれはという支援について、1つ、2つで結構ですが、挙げるとしたら何でしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺定住促進課長。〔定住促進課長 渡辺 勇君登壇〕

○定住促進課長（渡辺 勇君）

おはようございます。

お答えいたします。

今年度、新たな取り組みといたしまして、地域おこし協力隊を2名配置いたしまして、特に、小滝地域に1名ということで、都会から若者による中山間地への定着ということもありますし、地域の活力づくりということで、地域おこし協力隊のほうを設置いたしております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

○4番（渡辺重雄君）

今ほど課長のほうから地域おこし協力隊ということでございますが、それと集落支援員4名も配置をされておりますが、この人たちの使命、役割、これは我々も聞かされてはいるんですが、改めてお願いをしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺定住促進課長。〔定住促進課長 渡辺 勇君登壇〕

○定住促進課長（渡辺 勇君）

地域おこし協力隊も集落支援員も、お互いに地域の活力につながるというような行動を行っておりますが、大きな違いについては、地域おこし協力隊については都会の方を田舎というか、中山間地域に呼んで、それで若者による活力づくりということが1つあります。

それと集落支援員については、これは地元の方で、その地域に詳しい方を集落支援員として雇いまして、いろいろな情報だとか、それから対話等を行いながら集落の活力をつくっていくということで、一番大きな違いは、地元の精通してる方と、それから都会から呼んでくるということに、大きな違いが1つあるというふうに感じております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

○4番（渡辺重雄君）

今ほど課長がおっしゃるとおりかと思うんですが、集落支援員の皆さんの活動というのは、ホームページで紹介をされておりますので見させていただいてるわけですが、担当地区の区長さん方からも活動の一端をお聞きしておりまして、一生懸命活動してるというふうに言われておりまして承知はしとるんですが、私が今取り上げている将来に向けた集落の維持という点、この機能にかかわる動きという点では少し弱いような気がするんですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺定住促進課長。〔定住促進課長 渡辺 勇君登壇〕

- 定住促進課長（渡辺 勇君）

お答えいたします。

今、集落支援員の関係でございますが、今現在は、やはり集落の巡回や状況の把握、声かけ、見守り等、それから行事の参加ということで積極的に参加をしたり、それからお手伝いということをしとるんですが、今ほど議員言われるように、将来に向かって地域の活力づくりについては、まだそこまでなかなか踏み込んでいけないというのが状況でございます。今後、その辺のところを踏み込んでいくというようなことで、ステップアップをしていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

- 議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

- 4番（渡辺重雄君）

この集落支援員は地域の人たちの考え、極端に言えば言いにくいことを集約して、行政や関係機関につないでいくと。いわゆる今、はやりの言葉でコンシェルジュと言いますか、もうこんな役割があるというふうに私は思うんですが、行政の職員じゃなくて、さらに地域以外の人たちが担当してるというようなことが、非常に価値があるというふうに思っているんですが、一定期間、担当していただいたらまとめをしていただく。これは地域の人たちと一緒に集落の活性化プランをつくっていただくとか、しっかりとした使命、目標をやはりすべきだというふうに私は思うんですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

- 議長（倉又 稔君）

渡辺定住促進課長。〔定住促進課長 渡辺 勇君登壇〕

- 定住促進課長（渡辺 勇君）

議員おっしゃるとおりで、今でも地域づくりプランに参加等はしておりますけども、今後ともスキルアップをして、どちらかというと引っ張っていくと言いますか、中心になるような形ぐらいになるまでに、要は、スキルアップをしていければいいかなというふうに考えておりますので、やはり今言われたとおり、もう少し中に入って、そういう計画等まで踏み込めるような形にできればいいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

- 議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

- 4番（渡辺重雄君）

私は平成25年の12月の一般質問で、この集落支援員という名称を、糸魚川市は集落みまもり隊という名称にしたということで、その受けとめ方がちょっと違うんじゃないかと、イメージが違うというふうな指摘をさせていただいたわけなんですけど、そのときはみまもり隊のほうがいいんだというふうな見解だったんですけども、しかし、ここへ来て、ことしから本来の集落支援員という名称に変えたわけですけども、その理由はどんなことなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

- 議長（倉又 稔君）

齊藤産業部長。〔産業部長 齊藤隆一君登壇〕

○産業部長（齊藤隆一君）

前任ということで、ご答弁させていただきたいと思っています。

当初、みまもり隊ということでスタートしました。ただ、漢字で「見守る」ではなくて、平仮名で「みまもる」というみまもり隊という名称をつけさせていただきました。そのときの思いは、例えば介護的な見まもりとか、そういう意味合いでなくて、もっと広く地域活動全体をやはり支援していただくという意味合いをその言葉に込めて、名称としてスタートしました。

実際、動いてみますと渡辺議員の言われる、ちょっと違うんじゃないかなってというような声が地元からも、どこの地区ということではなくて、配置している地区からも聞かれるようになりました。これまでの活動の振り返りの中で、やはり誤解があってもいかんという部分もありまして、国の制度は「集落支援員」という言葉を使っておったんですけども、もう一度、活動を振り返る中で、名称も見直そう。誤解のないような部分でいきたいということで、今回の名称変更に至ったというものでありまして、やはり地区によっては、特に問題のない地区と、少し受けとめ方の違う地区もありましたので、むしろ誤解のないほうが渡辺議員のおっしゃる支援員でありますけども、集落支援という形で新年度からスタートしようという方向性を決めたところであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

○4番（渡辺重雄君）

どちらかというと、これは多くの自治体では地域担当職員制度、この職員の方をみまもり隊というふうに称しているところが結構多いんですよ。また、それから多くの市町村では、この集落支援員の職務として、地域の課題解決のための具体的方策の検討及び実施を図るということなんですね。したがって、この課題を解決したいために支援員が必要であって、極端なんですけども、イベント等への対応は公民館の職員の方、あるいは地域の方に任せといてもいいんじゃないかと思うんですが、これいかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺定住促進課長。〔定住促進課長 渡辺 勇君登壇〕

○定住促進課長（渡辺 勇君）

お答えいたします。

今、地域の課題だとかそういうものについては地域担当制による職員が、どちらかと言うと担当しておるということでございます。

また、集落支援員については、やはりイベント等になると、どうしても集落の方だけでは手が足りないということもございますので、そちらのほうに参加するとともに、やはりそういったことを通じて集落の中の方とコンセンサスを深めたり、いろいろな情報を得るということもあることから、そういう形で参加をさせていただいております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

○ 4 番（渡辺重雄君）

ちょっと私と考え方が違うんですが、まあいいですわ。私はこの集落支援員の方に期待するところが多いことから、このような意見を述べさせていただいてるんですが、先ほど課長がスキルアップのことを言っていました。私もこの支援員の方たちのスキルアップは、やっぱり図っていかなくやならんだろうと。そのために行政は、この方たちにどういう対応をされているか、伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○ 議長（倉又 稔君）

渡辺定住促進課長。〔定住促進課長 渡辺 勇君登壇〕

○ 定住促進課長（渡辺 勇君）

集落支援員の方についても、例えば今、小谷村にもおりますし、いろんなところにあります。そういう方たちの意見交換とか、それから研修だとか、そういうものに参加させていただいて、スキルアップのほうを向上を努めておるというところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○ 議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

○ 4 番（渡辺重雄君）

それから、この集落支援員、2年間の活動の中から集落の点検、あるいは話し合いを通じて施策に結びついた提言、取り組みはあったかどうか伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○ 議長（倉又 稔君）

渡辺定住促進課長。〔定住促進課長 渡辺 勇君登壇〕

○ 定住促進課長（渡辺 勇君）

具体的に、ちょっと思い浮かばないんですが、やはり地域で問題があったりなんかした場合、集落支援員を通じた中で各担当課にその旨を報告し、それから対応をしていただいております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○ 議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

○ 4 番（渡辺重雄君）

一言で答弁があったんですが、山ほどあるんですよ。ただ、そういう中から整理をしても、施策に結びつけていただきたいものがたくさんあると思います。いろいろ申し上げましたけども、その逆に対極と言いますか、地域にも一生懸命なリーダーがいるかどうかと、これがまた鍵になるわけございまして、各地の成功事例、これを見ますと、やっぱり熱意のある人が存在して、その周りに人や情報、それから資金が集まってきているということなんですね。

そういった点では都会から、今回、目的を持って来られている地域おこし協力隊、この方たちにも期待をいたしたいんですが、この辺の考え方と対応の仕方はいかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺定住促進課長。〔定住促進課長 渡辺 勇君登壇〕

○定住促進課長（渡辺 勇君）

確かに地域おこし協力隊については都会から来ていただいて、地域に入っていて、地域のいろんな問題点、それから問題点以外にも地域の活力づくりということで、今後、どういうふうになれば活力が出ていくかということ、入ってきて、そうすると地域のほうでも新たな考え方の人が入ってくるといことで、地域の住民も活性化をするということが、1ついい点ではあるのかなというふうに思っております。

その辺のところを生かす中で、地域おこし協力隊の方も3年間という期間があるんですが、それ以降もそこに住めるような形で、職だとかそういうものも地域の中でできるような方策がとれれば、一番いいのかなというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

○4番（渡辺重雄君）

それから、この中山間地域の過疎化と高齢化のサポートという点で、郵便局との連携に関して何か動きありますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺定住促進課長。〔定住促進課長 渡辺 勇君登壇〕

○定住促進課長（渡辺 勇君）

今のところ郵便局と具体的にというつながりといいますか、提携とかというのは、今のところはございません。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

○4番（渡辺重雄君）

我々は政務調査を通じて、行政側にもご提言はしてあるかと思うんですが、その1つとして、佐渡市では郵便局と包括的な連携協定、これ締結しておりまして、うまくいってるということもあるんですね。とにかくこの過疎化と高齢化、集落の対応だけでは、なかなか対応し切れないというところで、こういう私はお話をさせてもらっておるんですが、ボランティア、それから有償・無償にかかわらず、二重、三重のきちとしたやっぱり仕組みが必要になってるというふうに思っておりますので、よろしくお願いをしたいと思います。

それから、ちょっと変わったところではNTT東日本が、能生地域で6月から8月の末まで行っておりまして、このシニア向けのスマートテレビの試験なんですけども、この概要と試験の結果、お聞きしてましたら教えていただきたいと思いますと思うんですが。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

+

○議長（倉又 稔君）

原能生事務所長。〔能生事務所長 原 郁夫君登壇〕

○能生事務所長（原 郁夫君）

お答えいたします。

こちらのトライアルにつきましては6月から9月までの3カ月間ということ、期限を区切ってトライアルをやるということで、能生地域、30世帯をピックアップしてやらせていただいております。特に、高齢者の方の世帯で東京の息子さん、娘さんのところと電話回線を結んで、しかもウェブカメラをつけて顔を見ながら話せるというのが、今、一番利用の中ではパターンが多い。また、買い物支援ですとか、そういったことも取り組んでおりますけども、報告については10月のたしか中旬ぐらいに、こちらのほうに報告に来るということで予定を聞いております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

○4番（渡辺重雄君）

今、原所長が説明したとおりなんですけど、私の知ってる範囲では、やっぱりテレビ電話によって遠方に住む家族や、あるいは例えば民生委員さん、ケアマネジャーさん、こういうふうな方と顔を見ながら会話ができますし、それから買い物の注文とか、あるいは長時間にわたり、ここが重要ですね、長時間にわたりテレビの操作がない場合は、家族に通知できる機能などもあって見守りを補完できるシステムだと。ですから中山間地域では、かなりこの効果が期待できる。すぐにでも対応したいぐらいなんですけど、市としても今後、この検討の余地はあるんじゃないかと思うんですが、この点はいかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

○総務部長（金子裕彦君）

お答えいたします。

概要については能生事務所長がお話したとおりでございますが、N T Tのほうで新しいサービスをつくっていく上でということで能生地域で試行してありました。

課題的には、利用料金がどれくらいに設定されるのか、それから利用された方のご意見等も踏まえて、先ほど能生事務所長が言いました10月に、N T Tのほうから結果の内容についてお話をいただく機会を持つ予定でありますので、それらの内容を庁内で検討した上、市でもそのような新しいサービスに取り組んでいけるかどうか、そういうところもまたN T Tと話をしてみたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

○4番（渡辺重雄君）

よろしくお願いをしたいと思います。

また、ことしの1月ごろだったかと思いますね。国土交通省が限界集落を維持するためのコストについて、具体的な検証を始めたという報道が話題になっとなったんですが、これに関連して、市には何か情報が入っておりますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

○総務部長（金子裕彦君）

お答えいたします。

現時点においては私どものほうに、直接、情報は得ておりません。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

○4番（渡辺重雄君）

私、その中身をちょっと見てるんですが、政府は地域の拠点に人口を集約して効率的な地域運営を行う。いわゆる、いつも言われておりますコンパクトシティの形成について検討を進めてるというのが、この中身にあったんですが、この点について市としてはいかがですかね。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺定住促進課長。〔定住促進課長 渡辺 勇君登壇〕

○定住促進課長（渡辺 勇君）

お答えします。

今、国土交通省のほうでもコンパクトシティというのもございますが、そのほかに小さな拠点づくりということで、各集落と言いますか地域、山間地域なら山間地域で生活圏ができるような仕組み、それと小さな拠点とコンパクトシティを合わせた形で、まちづくりというものを、今、国土交通省のほうでは、こちらのほうにそういう形で、そういう計画があるよという形で情報を得ております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

○4番（渡辺重雄君）

将来的には、場所にもよりますけども、集落の維持が困難になるという事態も想定した中で、市としてもいろんな観点から研究は必要だというふうに思います。

それから国の施策なんですが、過疎地域等における集落対策に関する総務省の取り組み、これを見ただけでも大変多くの施策があるんですが、どのような手法で導入を図っているか、お伺いをしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

藤田企画財政課長。〔企画財政課長 藤田年明君登壇〕

○企画財政課長（藤田年明君）

お答えいたします。

確かに当市自身がもう過疎地域でありますので、そういった意味では過疎計画なり辺地計画、それから農林関係の補助事業でも中山間地域におけるソフト・ハード施策、そういったものは数多くあると思います。

そういう中で、当市において国の施策、補助金、制度、そういったものをどういうふうに活用していくかという中では、今回つくった総合戦略の中でもそういった国の支援、そういったものをなるべく有効的に活用して事業の推進、そういうものを図っていききたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

○4番（渡辺重雄君）

行政ではいろいろ研究なさって、導入を図ってくださっているんだと思うんですが、1つお願いしたいとすれば、地域の人たちが全くわからない状況の中であるわけですので、地域への説明とか、あるいは時には導入提案等も含めて、もう一足踏み込んだ対応をしていただきたいと思うんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

藤田企画財政課長。〔企画財政課長 藤田年明君登壇〕

○企画財政課長（藤田年明君）

お答えいたします。

そういった制度提案も含めてですけれども、やはり制度ありきでなくて、その地域にとって何が必要なのか。そういう中で、1つの財源手当という形で取り組んでまいりたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

○4番（渡辺重雄君）

その点もよろしくお願いします。

では、2番目の農地や山林の保全管理機能の低下と対策についてお伺いしたいと思うんですが、糸魚川市の農業の就業人口ですが、現在、65歳以上が95%で、70歳以上が82.3%というわけで、今後も就業人口の激減、耕作地の減少、さらに進むことは確実ですね。この中山間地域は、糸魚川市全体のデータ以上の状況が起きているわけでありまして、ちなみに農林水産省で全国規模で離農者の調査をしております。離農の原因の1番が高齢化、2番が後継者不足、3番が鳥獣被害なんですね。糸魚川市は、この点はいかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

○商工農林水産課長（齊藤 孝君）

今の議員が言われるとおり、当市におけます中山間地域の農業も、まさしくそのとおりだというふう to 受けとめております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

○4 番（渡辺重雄君）

それから各地区で地域農業懇談会、非常に数多く開いていただいておりますが、その要望の中身を少し見てみますと、用水の維持は1戸当たりの負担が大きいので、用水管理費として何かいい交付金はないかというような要望も具体的に出ておるんですが、どんな回答をされているか伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

○商工農林水産課長（齊藤 孝君）

農業を取り巻く環境は、国の農政改革とあわせて非常に大きな変化をもってきております。

昨年、地元のほうへ説明会に出向きまして、説明会やら講演会やらで約2,000人の皆さんにお集まりいただきました。そのように制度説明に努めてきておるわけでありまして、本当に用水に関しましても大変な労力が伴っております。また、管理に対する直接的な助成は特にないわけでありまして、日本型直接支払制度を使って通常の維持管理費や、軽微な補修も行えるようになっております。そのようなご説明をしながら、また、小修繕に対しましては地元負担の軽減も、市のほうとしては平成26年度から対応してまいっております。従来ですと地元負担35%、これを10%に軽減する中で、小修繕に対する市の支援も取り組んできておるところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

○4 番（渡辺重雄君）

この用水管理といえは前にも取り上げたことがあるんですが、この中山間地域の代表的な例なんですけども、西飛山地区で3キロメートル以上にも及ぶ水路を、毎年、五、六軒の農家で整備して水を確保していたと。これが非常に補修費と、高齢化のため体力も続かんということで、一念発起してため池事業の導入に踏み切ったんですけども、要望に沿って1年でも早く実現をさせていただきたいと思うんですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

○商工農林水産課長（齊藤 孝君）

農業基盤関係の今年度の農林水産省の予算、非常に厳しいものがございました。そのようなこと

から、西飛山につきましても予定していました予算が確保できない状況になりまして、市長を先頭に農林水産省、国会議員の先生にも要望書をお渡しし、お願いをしてるところでもございますし、また9月2日には、県の農地部長も市のほうに管内視察においでいただきまして、西飛山地区、現地を見ていただいて、地元の方々からも立ち会いをいただいて、また、地元の声もお伝えいただいた。そのようなことで予算の確保に努めておりますし、また、来年度の農林水産省の概算要求を見ますと、かなり大幅な増額が要求されておりますので、できるだけ予算の確保に努めてまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

○4番（渡辺重雄君）

よろしくをお願いをしたいと思います。

それから、先ほど課長がおっしゃいました用水路とか、ほ場の災害による損壊ですね、小規模災害に関して糸魚川市の農地農業用施設災害応援復旧事業補助金交付要綱、これ非常に喜ばれておるんですけども、こちらの活用状況はいかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

斉藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 斉藤 孝君登壇〕

○商工農林水産課長（斉藤 孝君）

農業用施設の維持管理、修繕につきましては、高齢化、過疎化していく中におきまして、地元負担が非常に大変になってきております。従来ですと10人で負担するべきところを5人での負担というふうな状況が見られましたので、平成26年度から、先ほども申し上げましたが、地元負担35%を10%に軽減するということでの支援をとってきておりまして、地元の皆さんからは非常に喜んでいただいております。これをまた継続していきたいということで考えております。

申しわけありません。件数は今ちょっと手持ちにないんですけども、災害の小修繕も含めまして当初予算で対応し切れないもんですから、補正をお願いしてるような状況でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

○4番（渡辺重雄君）

それから、この頭の痛いのが鳥獣害対策ですね。市として、この鳥獣害の関係で制度、計画、それから規則、要綱、これをつくっていただいて一生懸命対応していただいておりますが、現在の状況、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐環境生活課長。〔環境生活課長 五十嵐久英君登壇〕

○環境生活課長（五十嵐久英君）

鳥獣被害の防止ということでは、金曜日からもお話があるように電気柵というところが大きなと

ころでございますけども、個体数の減少というところでは猟友会による捕獲というところで取り組んでまいっているところでございます。こちらについては、猟友会、市、県等で被害対策の協議会をつくって、その中で協議をしながら取り組んでまいっているところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

○4番（渡辺重雄君）

最近はこの被害、ほとんどの野菜にまで及んできておるんですね。このままですと中山間地域では離農の原因の一番になりそうな状況、危険な状況なんですね。電気柵、それからネットはもとより、獣に負けちゃいけないというんで、24時間見張りをしてラジオを鳴らしたり、ドラム缶をたたいたり、あるいはにおいを出したりと、非常にあらゆることを工夫してやっているという方のお話もお聞きをしております。

また、中には災害だということで、自衛隊にお願いしたらどうだという話も聞こえてきておりまして、現段階で一番有効な方法というのは一体何だろうというふうに思うんですが、この辺はいかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

斉藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 斉藤 孝君登壇〕

○商工農林水産課長（斉藤 孝君）

特にイノシシの被害につきましては、平成22年くらいから捕獲頭数が非常にふえてきております。有害、狩猟も含めまして平成25年には114頭、平成26年につきましては、いろんな単独での捕獲の委託事業もしておりまして363頭捕獲することができました。被害的にも昨年は、平成25年度の約2.7倍、3倍弱の被害が出てきております。

そのような状況の中で、今まで電気柵につきましては市内100キロ、今年度につきましては約60キロの電気柵の設置を、地元の要望を受けて支援させてもらっておるわけでありまして、渡辺議員が言われる根本的な解決策はどうなんだというところにつきましては、電気柵をもって未然に予防していくということしか、今はないのかなというふうに考えておりますし、また、猟友会も高齢化してきておりますので、今後の捕獲についての猟友会への支援のあり方について、今のままでいいのかというのも、1つ工夫する必要があるのかなというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

○4番（渡辺重雄君）

先ほどの話の中で自衛隊の話がありましたよね。この自衛隊に関して私も調べてみたんですけども、平成23年に北海道でエゾシカの駆除を大がかりに実施したということで、それに自衛隊が関与してるんですね。ヘリコプター2機にスノーモービルなどの車両20両、隊員が40人、それに森林管理局の職員、地元猟友会の方が120人、3日間で捕獲数が28頭だったということなんで、

これが成功であったか失敗であったかは別にして、この自衛隊の出動というのも法的にといいますか、可能なんだろうかね、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

斉藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 斉藤 孝君登壇〕

○商工農林水産課長（斉藤 孝君）

北海道におけますエゾシカの被害が年間約５０億円ほど出ているという深刻なことから、今、議員が言われる自衛隊に要請したということもお聞きしております。ただ、今言われましたように捕獲頭数等を考えると、成功とは言えなかったんだろと思うておりますが、今、ご質問の自衛隊に要請することができるのかということであれば、北海道の例をとりますと、できるんだろなというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

○４番（渡辺重雄君）

それから私は先日、猟友会の役員の方にいろんなお話をお聞きしておるんですが、非常にいろんな意見、要望を持っております。それから、また非常に協力的な皆さんでありますので、踏み込んだ現実的なお話をしていただきたいと思うんですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐環境生活課長。〔環境生活課長 五十嵐久英君登壇〕

○環境生活課長（五十嵐久英君）

猟友会のほうも高齢化が進んだり、また、会員については、昨年度はたまたま１名増ということになっているんですけども、おおむね減少傾向ということで非常に大変だという話を、猟友会の皆さんとお話するときは、いつもお聞かせいただいております。

そこで先ほど商工農林水産課長が申しあげましたように、今後、猟友会への有害鳥獣等への駆除の報酬のあり方等も含め、また猟友会の皆さんと、今後、話し合っていきたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

○４番（渡辺重雄君）

猟友会の皆さん、いろんなお考えを持っているということですが、その中で効果的な捕獲を目指すならば、今、整備してある条件以上の対応が、必要になりますよというふうなことです。

まず、具体的ところで、この居場所を特定するには何人かの手が必要になるということですね。その手がなかなか確保できない。したがって、これは効果的に効率を上げるということになれば、今出てきております無人飛行機、ドローンを使って空中から居場所や動きを捉えて、それで

山中で動きやすい態勢をとるという必要があるというふうなことを強調されておりましたが、このドローンを利用した狩猟に関して考えてみたらどうかというふうに思うんですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐環境生活課長。〔環境生活課長 五十嵐久英君登壇〕

○環境生活課長（五十嵐久英君）

議員おっしゃるように、今、動物を追うせこという方を集めるというか、その人数の確保というので苦慮しとるというような話も聞いております。ただ、議員ご提案の無人飛行機じゃなくてヘリコプターですね、ドローンを使った捕獲という面に関しては、それが可能なかどうかも含めて猟友会の皆さんと、今後、そういうものを使えるのかどうかを検討してまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

○4番（渡辺重雄君）

仮にドローンを使って居場所を特定して捕獲するにしても、地区の方たちの協力が必要だというふうに思っているんですね。捕獲した物を処理しなければならないわけですし、その場所で処理するにしても、また運び出すにしても狩猟者だけの作業では、なかなか限界があるというふうなお話をされておりましたので、ぜひとも効果的な対応と一緒に考えていただきたいと思います。

それから糸魚川市鳥獣被害対策実施隊、こういうのがあるんですけども、この組織の活動状況を教えていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐環境生活課長。〔環境生活課長 五十嵐久英君登壇〕

○環境生活課長（五十嵐久英君）

実施隊につきましては、猟友会の皆さんと、市の鳥獣被害対策にかかわる職員で組織しております。この実施隊自体については、主に各それぞれの地域のパトロールと、あと情報共有というのが主な役割になっております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

○4番（渡辺重雄君）

では、少し基本的なことでお伺いしたいんですが、獣の被害対策、これは大きく分けて3つあると。被害管理、個体数管理、生息地管理、先ほどから個体管理、それから被害管理についても触れているんですが、この生息地管理に関しては、どのような取り組み、またお考えを持っておりますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐環境生活課長。〔環境生活課長 五十嵐久英君登壇〕

○環境生活課長（五十嵐久英君）

やはり鳥獣被害が近年多くなってきたのは、人の住む地域と、いわゆる鳥獣が住む地域、その境界がだんだん曖昧になってきたと。昔は人の住む地域と、そういう鳥獣が住む地域の境界が、ある程度ははっきりしとるところで、被害が少なかったということがあったかと思うんですけども、そこで今、議員おっしゃられている生息地管理という部分が重要になってくるかと思うんですけども、それについてはある程度、その境界地をはっきりさせるために、下草刈りとかというのが有効だというふうに言われておりますが、現段階では、そこまで当市では取り組めてる状況ではございません。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

○4番（渡辺重雄君）

それから、この被害額ですね、先ほどもちょっと被害の状況を聞いておるんですが、この中山間地に特定したものでなくても結構なんですけど、地域別に概算でどれぐらいになってるかということと、また、この被害の救済ですね、これどんな方法があって、どれぐらいの額が支給されているものなのか、こちらもわかったらお伺いしたいと思うんです。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

斉藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 斉藤 孝君登壇〕

○商工農林水産課長（斉藤 孝君）

農作物の被害の額でございますけども、平成26年度では市内全域で720万円ございました。そのうち能生地域が特に大きくて470万円ございました。これに対しまして、農業共済に加入されている場合には、被害額が発生したときに共済金が支給されるわけでありまして、特に被害額が多かった能生地域におきましては、470万円の被害額に対しまして、320万円の共済金が支給されているという状況になっております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

○4番（渡辺重雄君）

それから電気柵に関してでありますけども、この補助事業のおかげで非常に広範囲にわたって設置ができるようになって、かなり地区では助かっておるんですが、新たに毎年、被害の場所が出てくるんですけども、すぐ対応しなきゃならんものですから、この電気柵を個人、またはグループで自前で購入してる場合も非常に多いんですけども、この場合は補助の対象にならんわけですので、1年前に前もって補助申請したものばかりでなく、その都度のケースにも何か対応していただけないかという要望が結構出てきておるんですが、それについてはいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

○商工農林水産課長（齊藤 孝君）

国の補助金を活用するために、１年前に要望の把握をしておるところでございます、ちょうど今の時期が要望の取りまとめの時期となっております。財源を考えますと、あらかじめ把握をしておいて、国の補助金を活用していきたいというふうに考えておりますし、できるだけ被害に遭う前に予防面からも考えて、早目に要望していただきたいというところで考えております。

市では緊急的なものに対応するために、電気柵４００メートルを３基所有しております。補助までのつなぎで要望がある場合には、これに対応していきたいというふうに考えるところであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

○４番（渡辺重雄君）

それから昨年、制定された国の鳥獣保護管理法の中で、シカ、イノシシを指定管理鳥獣と位置づけて、１０年間で半減させる目標があるということなんですが、国や県から具体的な戦略が示されているのかどうか。また、その中で事業者認定がポイントだというふうに言われとるんですが、具体的に、それはどんなことなのか、おわかりでしたら教えていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐環境生活課長。〔環境生活課長 五十嵐久英君登壇〕

○環境生活課長（五十嵐久英君）

従来の鳥獣保護法については、法律の改正で管理という概念が加わったということを金曜日もお話したところでございますが、これを受けまして県のほうでは、熊、イノシシについて、それぞれ管理計画というものを持ってございます。イノシシについては、その中では平成２４年度の調査では、新潟県内に約４，４００頭生息しておるというような推測をしておりまして、それを減らすためには約２０％から３０％程度の個体数を、それぞれ年間にとる必要があるだろうということ示されております。その目標に向かって各県内の市町村では個体数の減ということで、捕獲に取り組んでいるところでございます。

以上です。

あと事業者認定のほうは、ちょっと承知しておりませんので、申しわけございません。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

○４番（渡辺重雄君）

それから昨年度、ジビエの活用先進地視察、これを行っておるようなんですけども、このジビエに関しては、今後、どのような取り組みをしたいというふうに考えておりますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

+

○議長（倉又 稔君）

五十嵐環境生活課長。〔環境生活課長 五十嵐久英君登壇〕

○環境生活課長（五十嵐久英君）

ジビエの関連については、この２月に鳥獣被害対策協議会の会員の皆様と一緒に、長野県のほうへ行ってまいりました。その報告を聞きますと、１番は個体数の確保ということで、その前の研修からなんですけども、おおむね年間３００頭程度その加工施設のほうで処理できないと、その施設の採算性がとれないということで、当市でやる場合については、先ほど申し上げましたように年間で当市の場合、イノシシの場合ですと、昨年で３５０頭程度とっているんですけども、お話を聞くと、そのとれたうちの大体１割程度が、食肉加工場にまわせることができるというようなお話でもございましたので、いわゆる本当に採算性だけを目指してジビエの活用とすることについては、現時点では難しいのかなというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

○４番（渡辺重雄君）

このジビエに関しても、研究をしていただきたいと思います。

次に、山林に関してであります。昭和３０年代は国内の木材需給率の９割以上が国内産であったと。現在は２割程度というふうにお聞きしとるんですが、昭和５５年をピークに価格も落ち続けたと。しかしながら、国内の拡大造林計画では、平成８年まで拡大計画が続いていたということなんですが、現在の国の政策について教えていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

斉藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 斉藤 孝君登壇〕

○商工農林水産課長（斉藤 孝君）

国のほうでは平成２１年でありますけども、国の新成長戦略の中に森林林業再生プランを打ち出しております。また、平成２３年におきましては、森林林業基本計画を樹立しまして、国産材の木材の需給率を５０％まで高めるというふうな方向性をもって、今取り組んでいるというところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

○４番（渡辺重雄君）

現実のことなんです。木が大きくなり過ぎたり、また、台風や大風で支障になって伐採するのに２０万円かかったとか、あるいは１０万円かかったという話がしょっちゅう聞かれるわけです。しかも、この切った木を使うことでなく、また使うとなると、その上に経費がかかるというふうな状況で、山林があることで、非常に管理面で憂鬱になっているというのが現実あります。この実態を改善するために、関係機関と連携して動いていただきたいと思いますというふうに思うんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

斉藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 斉藤 孝君登壇〕

○商工農林水産課長（斉藤 孝君）

木材の価格につきましては、外国産材の輸入が始まってから木材の価格がかなり下がってきておりまして、今、議員言われるのが実態だと思っております。

ぬながわ森林組合におきましては食品加工部門の閉鎖、これによりまして実質的に森林の施業で経営を一本化していくということになったわけでございますので、木材を供給する側、また供給を受ける側としっかりと連携をして、糸魚川市におけます森林資源の活用をしっかりと考えていきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

○4番（渡辺重雄君）

ここまできましたら逆手に取って、森林の活用、木材の活用に関してアイデアを募集していただいて、それから大学等との連携でいろんな制度も考えて、徹底して森林のまち糸魚川、これを売りにしていただきたいと思うんですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

斉藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 斉藤 孝君登壇〕

○商工農林水産課長（斉藤 孝君）

糸魚川の1次産業におきますところの地域資源は、非常に魅力的なものが多いと思っております。林業も含めまして糸魚川の地域資源をしっかりと魅力のあるものにして、情報発信していきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

○4番（渡辺重雄君）

一番いいのは、中山間地域の農地、山林に関しては所得の向上が図られて、特別な水路も要なくて鳥獣害もないと、こういった取り組みが欲しいわけなんです、1例として、炭焼きとか薬草、また、山菜などの取り組みですね。かつてのように自然に任せたものでなくて、6次産業化につなげる取り組みですね。国では、今年度から山村活性化支援交付金制度、この中で試行、実践などを含めて取り組みに交付金を支給すると。来年度、これをメニューを挙げておりますので、この炭焼きについては、特にぜひやりたいという人もおりますので、取り込んでいただきたいんですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

斉藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 斉藤 孝君登壇〕

○商工農林水産課長（齊藤 孝君）

炭焼きをしたいというご相談は私も承知しておりますし、どういう支援制度があるかというお話も、ご本人に返しているところでございます。炭焼きに限らず1次産業においては、個人、個人の経営から、やはりそれぞれ個人間の連携、あるいは6次化、農商工連携などによって、個人戦から団体戦へというふうな転換にもっていかないと、これからなかなか中山間地域では対応できないんじゃないかなということもありますので、積極的に現場のほうへ出向きまして情報発信し、また、声をしっかりと聞きたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

○4番（渡辺重雄君）

この件では先週、同僚議員が国の担当者と懇談をしておるんですね。その際に所得、雇用の面からも、ぜひこの制度を使って中山間地域に役立ててほしいというお話もいただいておりますので、課長がおっしゃられたように、お願いをしたいというふうに思います。

それから、次に3番目の過疎の進行による生活環境の機能低下と対策についてであります。時代がこれだけ進歩しても、中山間地域で大事なものは雪対策なんです。私はこの雪対策を考えますと、かつて中山間地域にありました冬期集落保安要員制度ですね。これほど喜ばれた制度はないというふうに私は思うんですが、県の制度であったんですが、ちなみに活動内容は、主要生活道路の除雪、雪処理が困難な高齢者世帯等の除雪、見守り、公共施設、公共的施設の除雪、除雪ボランティアとの協働及び受け入れ体制の整備、市町村が緊急かつ必要と認める雪処理に係る業務というふうになっておったんですね。冬期間のみで経費の2分の1を県が補助するというものだったんですが、この制度の復活をぜひしてほしいと思うんですが、これいかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

○総務部長（金子裕彦君）

お答えいたします。

議員おっしゃるように、かつては集落保安員というような形での制度がございました。その後、いろんな経過があって現在に至っておりますけれども、現時点では除雪ボランティアとか、あるいは集落での共同での小型除雪機の貸与とかというようなことでの取り組みをいたしております。

そういう中におきまして、さらに高齢化が進んできて、オペレーターの確保等も難しいというような現状の話も聞いております。そういうことを踏まえながら議員がおっしゃる点についても、今後、検討してまいりたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

○4番（渡辺重雄君）

先ほどいろいろ申し上げました集落支援員よりも、この冬期集落保安要員制度、これは直接困っ

ている方に、困っていることに、困っているときに手を貸していただくと。この中山間地域における安心・安全を確保する上では、冬場の命綱みたいな制度と言われたものでした。

上越市と十日町市などでは、ひとところよりもむしろ拡充して継続しているということですので、ぜひ復活していただきたいと思います。もう一度いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

○総務部長（金子裕彦君）

その制度につきましては、議員が先ほどもおっしゃられましたけれども、県の制度でいったん廃止というような状況になったわけでございます。ほかにそのような助成制度が、何か使えるものがあるかという研究も含めまして検討してまいりたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

○4番（渡辺重雄君）

補助要件もかなり厳しくなっているかもしれません。なかなか適合しにくいというのものもあるかもしれませんので。この十日町市では、これとほぼ同じような制度で、独自につくられているケースというのもしっかりあるんですね。ですから中山間地域において、どんな制度よりもすぐれた、優先してほしい制度ということでもありますので、必ずしも県の制度にこだわるわけじゃないんですが、いい方法があったら独自で創設するというのも、ぜひ考えていただきたいと思いますが、その点についてはいかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

基本的には、今、部長が答弁したとおりであるわけですが、除雪だけではなくて、渡辺議員、今、一般質問されてるように、もう中山間地、山間地、トータル的に見てどうなんだというところで考えていかなくてはいけないんだろうと思っています。

そういう中で自然のいろんな資源を生かして、どうそこで生活ができるか、また、そこでそういった資源を生かした企業化できるかというところをしっかりと位置づけないと、ただ一部のところだけ捉えて支援をしても、なかなかこれからのこの地域の存続につながっていかないんじゃないかというところが、一番私は大事だろうと思っていますので、農林水産の部分も含めながら連携していきたいし、また、それを1つのしっかりとした地域に根づいていく、やはり地域が存続するという形にもっていきたいと思っています。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

○ 4 番（渡辺重雄君）

ぜひそのような取り組みでお願いをしたいというふうに思います。

次ですけれども、先日の保坂議員の質問と重なるんですけれども、中山間地域の街灯に関してですけど、戸数が激減している集落であっても街灯の数は変わらない、むしろつけなきゃならんというような状況もあるんで、今後のＬＥＤ化に向けてかなりの負担感があると。このＬＥＤの更新は無理だというような話も聞こえておりますが、これはそういう要望とか話は聞いてないというような話だったんですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

串橋建設課長。〔建設課長 串橋秀樹君登壇〕

○建設課長（串橋秀樹君）

現在、地区から街路灯を設置していただきたいということで申請書が上がるわけなんですけれども、ほとんどが今、ＬＥＤを希望しております。

それからＬＥＤが高いということでありますけれども、街路灯設置補助要綱では、従来、蛍光灯照明とＬＥＤ照明が選択できるようになっておりまして、高価なＬＥＤ照明器具を強制しているわけではありません。

しかし、ＬＥＤ照明はイニシャルコストと言いまして、導入コストが高いわけありますけれども、長い目で見た場合、最終的には、地区が負担する維持管理費の削減になると思っております。その理由は、このＬＥＤの普及というのは、平成２２年６月ごろから出始めました。それで平成２３年度からは、ＬＥＤと蛍光灯の補助金に差をつけるということで、平成２３年度から設置補助要綱を改正しておりまして、ＬＥＤと蛍光灯に差をつけたということであります。

それで現在では、製品価格も大分安くなってきております。それと一番の決め手は電球の寿命が全然違うということであります。ＬＥＤは４万時間ということで、蛍光灯は６，０００時間ということで、１日１０時間つけた場合、１０年もつということでありますので、約７倍の寿命がありまして、蛍光灯の球切れも７回その間にあるということで、それも交換したりしていますと、結局、蛍光灯のほうが高くつくということで、ＬＥＤを推奨しているところであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

一般的な事業はそういう形なんですけど、議員ご指摘の内容につきましては、やはり一律にじゃなくて今言われるように、どうすれば少数の集落で取り組めるかということを考えていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

○ 4 番（渡辺重雄君）

今、市長がおっしゃったように、私、そこをお願いしたいというところなんです。

この中山間地域のある集落なんですが、最近、東北電気保安協会から点検を受けて、何カ所か整備の改修が必要だという指摘を受けたんだそうです。そしたらかなり高額になるということで、この補助制度の適用をしていただいたとしても、非常に負担が大きいというふうで困ったというようなことで聞いておるんですが、これは市のほうへは話がありましたよね、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

○総務部長（金子裕彦君）

少人数の集落等においてＬＥＤ化するときには、非常に負担が大きいというような声は市のほうでも幾つかお聞きしている状況がございます。そういう状況の中で、先ほど建設課長が申し上げましたように、社会の流れとしてはＬＥＤ化していくのが望ましいわけでございますので、ＬＥＤ化していくためにはどのような助成の方法がいいのか、改めて検討する必要があると思っておりますので、今後、また次年度に向けての庁内での検討の中で、助成のあり方について再検討してまいりたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

○４番（渡辺重雄君）

その地区では東北電気保安協会からの指摘というふうなことでありまして、安全面からもほっとくわけにはいかないと。ただ、この補助要綱だけだと相当出費がかさむんで、直さなきゃいけないという指摘を受けているけど直せてないというような悩みなんですね。早急に検討していただきたい事案だと思います。

それから、この電気料金を市が負担していただいているということで、非常に喜んでおるわけですが、この補助を多くしても、逆にこのＬＥＤ化にすると市のほうでも非常に助かるわけですので、更新を早くしたほうが良いというふうな考え方もあるんですが、その辺の試算というのはされたことありますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

○総務部長（金子裕彦君）

お答えいたします。

省エネルギーの社会にしていくという上で、ＬＥＤの効果が非常にあると思っておりますので、そういう中において先ほど申し上げましたように、できるだけＬＥＤ化が進むような助成制度のあり方を検討してまいりたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

○４番（渡辺重雄君）

全国の行政では、行政の施策としてこのＬＥＤ化を短期間にされているというところもありますし、また、この補助制度を見直して補助率のアップ、この３分の２の補助で上限を２万円とか、あるいは２万５，０００円、とにかく、かなり踏み込んだ対応をされておりますので、見直しの際には、それらも参考にして、もう一步踏み込んだ要綱をつくっていただきたいというふうに考えますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

齊藤産業部長。〔産業部長 齊藤隆一君登壇〕

○産業部長（齊藤隆一君）

金曜日の保坂議員のご質問でもお答えしておりますが、いろいろ取り巻く状況も大きく変わってきているところもありますので、今ほどの答弁も含めましてですけれども、助成のあり方につきまして、部内で早急にまた検討していきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

○４番（渡辺重雄君）

私はこの中山間地域に関する諸問題、今までも何回か取り上げさせていただいております。意見や要望を申し上げてはありますが、そしてかなり大きく支援をしていただいて、非常に助かっております。

市民の中には、この中山間地域にお金がかかり過ぎるというようなお話も聞こえてはいるんですけども、市当局におかれましては数多くの施策を講じていただいておりますし、また、いろんな面で改善されてきております。今回、新たに取り上げた課題もございますが、いずれも生活するために、また、生きるために必要な基本的なお願いでありますので、よろしくをお願いをしたいと思います。

以上です。

○議長（倉又 稔君）

以上で、渡辺議員の質問が終わりました。

次に、五十嵐健一郎議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。〔１７番 五十嵐健一郎君登壇〕

○１７番（五十嵐健一郎君）

おはようございます。

清政クラブの五十嵐健一郎です。

通告書に基づき一般質問をさせていただきます。

１、糸魚川市まち・ひと・しごと創生総合戦略についてでございますが、岩手県の紫波町、盛岡市の南に位置するんですが、人口３万人強でありまして、２００９年から駅前一帯で展開されている開発事業、オガールプロジェクト、これは公民連携による地域活性化の手本として、全国から注